

茶ぐわ〜ゆんたく

お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？

175

新たな街づくりにむけて

—ニュー普天間通り—

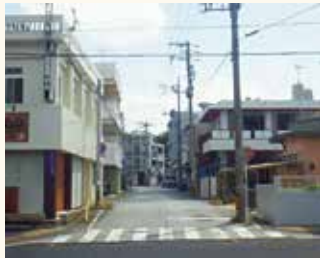
上の写真は、1966(昭和41)年10月18日に撮影されたニュー普天間通りの様子です。「茶ぐわ〜ゆんたく」164号で紹介しました新開通りと同様に舗装工事が行われ、アスファルトが敷かれて通行し易くなりました。本市は1962(昭和37)年に市に昇格した後、都市計画が進められ、同時に市民の生活に直結する既設の道路整備も重視されました。このと



▲ニュー普天間通り 1966(昭和41)年
この年に舗装工事が竣工しました



◀ニュー普天間通り
1980年代



▶現在のニュー普天間通り
2018(平成30)年

【問合せ】
市立博物館 ☎ 870-9317

き整備が進められた道路は、道幅4m以上の主要道路が対象となりました。かつてのニュー普天間通りは、入口にアーチが設置されていました。60年代のニュー普天間通りのアーチは、普天満宮の鳥居をイメージしているように見えます。
右下の写真は、現在のニュー普天間通りです。アーチは撤去され、閑静なたたずまいになりましたが、毎年旧暦7月13・15日と8月15日になると、大勢の人で賑わいます。それは、写真の奥に見える、ふてんま公園の小高い丘の下で「普天間の獅子舞」が催されるからです。今でもこの時期になると、昔と変わらず賑やかな雰囲気に包まれます。



▲大山貝塚(ミスクムウイ)
大山の「ジミー」の裏手の坂道を登りきった
ところにあります

大山貝塚は、地元から「ミスクムウイ」と呼ばれ御嶽として大切にされています。1958(昭和33)年に多和田真淳氏と別府大学の賀川光夫氏が共同で、考古学の基本的な調査方法である「層位学」を基に発掘調査が行われました。その結果、土器やかんざし、骨針などの遺物が多数見つかりました。その中でも土器は、「大山式土器」として沖縄の標準土器に位置付けられました。もし、大山式土器が九州の遺跡から発見されたら、その遺跡はこの時期の遺跡であり、文化も九州まで広がったことを示すこ



▲大山貝塚出土の装身具等
沖縄県立博物館・美術館所蔵



▶大山式土器
深鉢と呼ばれる縦長の器で、煮炊きで使用されていたとされています。ヘラ状の工具で横方向に押し引く文様が特徴です。
土器は、宜野湾市立博物館に展示されています。

大山貝塚



とになります。このことは、沖縄の遺跡研究において画期的な事で、大山貝塚は、重要な遺跡として1972(昭和47)年、国指定史跡に指定されました。

【問合せ】

文化課 ☎ 893-4430